
二度目の告白

月守 空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二度目の告白

【Nコード】

N0627C

【作者名】

月守 空

【あらすじ】

私は彼に「別れ」を告げた。その理由は・・・そして、その結末は・・・

「・・・もう別れましょう。さようなら」
「・・・」

うつむいたまま私は呟いた。

気配で彼が立ち去ったのが解った。

夏の暑い日だった・・・。

雲ひとつない澄んだ青空。

私はそれを、自分の部屋から見上げていた。

青空に真直ぐに飛行機が線を描いていく。

「あれに緋月は乗ってるのかなあ・・・」

ため息混じりに私は呟いた。

緋月とは私の元彼。

国語の教科書見て「これ何語？」とふざけて言う人だったけど
大好きなサッカーをやっている時の目は真剣そのもの。

夢はサッカー選手。

いつも真直ぐそんな緋月が私は大好きだ。

・・・なのにどうして「元彼」となってしまったのかと言うと
・・・別れてしまったのかというと

簡単だ。

「彼の夢の重荷になりたくなかったから」だ

私がいるおかげで緋月が迷うような事になってはならない。

そう思ったからだ。

今日彼はドイツへ行ってしまふ。

だから、暫くは会うことが出来ないのだ。

「頑張ってねー緋月ー」

近所迷惑というのを考えずに私は窓から身を乗り出して空に向かって思い切り叫んだ。

叫び終わった私は姿勢を戻した。

そして、ため息をつきつつ、呟いた

「届いたかなあ。私の想い」

「ばつちり届いてるぞ。」

ハッとして私は再び身を乗り出して、家の門の方を見た。

そこにいたのは・・・

なんと今日ドイツへ行つたはずの緋月だった。

私は窓を閉め、階段を飛ぶようにして降りた。

そして、私は荒い息を整えつつドアを開けた。

「よお。久しぶりだな。沙耶」

驚いて突っ立っている私に緋月は笑顔で言った。

・・・誰かの悪戯かと思つたが、本人だった。

「緋月ってドイツ行つたんじゃないの？」

「ああ。それなら止めた。」

「はあ？やめた？どうして？せつかくのチャンスだったのにさ？」

「だって・・・一人で夢なんて追いかけれない・・・沙耶がいてくれたから

・・・やってこれたんだ・・・俺にはお前が必要なんだ!!」

照れくさそうに・・・でも真直ぐに私を見て緋月は言った。

あの時と・・・いつもサッカーをやっているときみたいな真剣な瞳だった。

いつの間にか私の瞳からは涙が零れ落ちていた。

「えっ・・・ちよつと・・・どーして泣く？」

「・・・だって・・・バカ・・・夢捨ててどうすんのよ・・・」

色々、私は言いたいことがあつたが緋月に抱きしめられたおかげで最後までいう事が出来なかった。

本当はもっと色々言いたかつたけれど、懐かしい感触にそんな事はどうしても良くなつてしまった。

「これから先、ずっと隣にいてくれる？」

耳元で囁かれた。

「はい」

私は緋月の間にしつかりと答えた。

そんな私達を太陽が優しく見守っていた……。

「……耶。沙耶」

「えっ……ああ。緋月か。どうした？」

私が我に帰ると、そこには呆れ顔の緋月が立っていた。

「お前。十時から担当の人と打ち合わせじゃなかったのか」

「あー。忘れてたー」

叫びながら、私は立ち上がった。

その拍子にイスが倒れた。

「じゃあ、行つてきまーす」

私は、イスを直す事もせず、必要な書類諸々を持って、家を飛び出した。

そして、走って打ち合わせ場所に向かった。

夏のある日から、十年の月日が経って私達は大人になった。

あれから、お互いそれぞれの夢に向かって頑張っていた。

本当に緋月はサッカー選手となり、現在活躍している。

私は、そこそ有名なライトノベル作家になった。

私が挫折しそうになった時は緋月が助けてくれて。

緋月が挫折しそうになった時は私が助けてあげた。

お互いに支えあってやってきた。

・・・そんな人と出会えたのは運命って言うのかな？

運命だと私は思いたい。

（後書き）

二ヶ月近くブランクがあったせいか、文章がおかしくなっていました。少し多めに見て下さい（笑）
感想・評価・何でもお待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0627c/>

二度目の告白

2010年10月25日00時22分発行